

## 地域ケア会議、協議体に共通する主な地域課題への対応

地域課題		取り組み状況	今後の展開
移動手段の確保	公共交通不便地域や運転免許証返納後の移動手段の確保	<p><u>地域住民のボランティアによる支援</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者移送活動支援補助金を活用した住民団体による移送支援の継続</li> <li>・地域住民によるなごやか寄り合いへの移送支援の検討</li> </ul> <p><u>社会福祉法人の地域貢献による支援活動</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉有償運送による透析患者の通院支援</li> <li>・電動カートを活用した移送支援</li> <li>・デイサービスの送迎車を活用した買い物サービス支援</li> </ul>	<p><u>地域住民のボランティアによる支援</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・移送支援に取り組む住民団体の運営支援、立ち上げの推進</li> <li>・運転ボランティアやコーディネーターの確保</li> </ul> <p><u>第2層協議体における移動手段確保に向けた検討継続</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各地区の公共交通機関等の状況を踏まえた移動手段の検討</li> <li>・行政関係機関と連携し、移動手段確保に関する研修会を開催</li> <li>・地域住民による具体的な活動の組織化</li> </ul> <p><u>社会福祉法人による移送支援の促進</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉法人への移送課題の共有、実践事例の周知、及び支援活動への協力の働きかけ</li> </ul>
	住民交流の場の不足	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多世代交流できる場や子どもの居場所が少ない</li> <li>・多文化交流できる場が少ない</li> <li>・障害や病気を持った方のニーズにマッチした場所が少ない</li> <li>・男性が参加しやすい活動の場が少ない</li> <li>・特技を活かせる場がない</li> </ul>	<p><u>地域資源の活用</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ケアマネジャーや生活支援コーディネーターと連携し、地域資源の掘り起こしや活用方法を検討</li> <li>・高齢者お役立ち情報による地域資源の周知</li> <li>・なごやか寄り合いなど通いの場の啓発やインフォーマルサービスの活用</li> <li>・持続可能な場として、フードロスなどを活用した子ども食堂の立ち上げを支援（R4.12月現在 13カ所）</li> <li>・重層的体制整備事業の一環で参加支援メニューガイドブックの作成</li> </ul>
社会参加の場や居場所づくり	コロナ禍におけるフレイルの増加	<p><u>社会資源の活用</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・おうち元気塾の活用</li> <li>・おうちでボランティアの活用</li> </ul> <p><u>コロナ禍における交流の場の確保</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出張ボランティアカフェの開催</li> </ul> <p><u>状態変化の把握・見守り体制の構築</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シルバー人材センターによる高齢者スマホ教室の開催</li> </ul>	<p><u>社会資源の活用</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・屋外活動のメニュー開発（ウォーキングなどのスタンプラリー）</li> <li>・住民主体型通所サービス（通所サービス B）の拡充</li> </ul> <p><u>状態変化の把握・見守り体制の構築</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT活用による見守りサービスの活用など、新たな技術を活用した繋がり構築</li> </ul>
	日常生活での困り事	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴミ出し、買い物に困る</li> <li>・雪かきや草刈りが出来ない</li> <li>・空き家、空き土地による環境悪化</li> <li>・町内会自治会への未加入世帯が増え、地域の情報が伝わらない</li> </ul>	<p><u>日常生活を円滑に営むための資源開発やサービス利用</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者お役立ち情報の周知</li> <li>・シルバー人材センターやボランティアセンターとの連携による生活支援</li> <li>・有償ヘルプサービスの活用による介護保険サービスの補完</li> <li>・第2層協議体における地域での支援活動</li> <li>・地域住民主体での、空き家・空き土地の実態把握</li> </ul>
生活支援	担い手不足	<p><u>担い手の育成（人材育成）</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・担い手養成研修の実施</li> <li>① 暮らし安心サポートセミナー</li> <li>② 松江市総合事業訪問型サービス A 従事者養成研修</li> <li>③ 介護の入門的講座</li> <li>④ 第2層協議体構成員への研修</li> <li>・松江市ボランティアセンターの個人・団体ボランティアの活用</li> </ul> <p><u>ふくし教育の実施</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「あいサポート研修」「認知症サポーター養成講座」 など</li> </ul>	<p><u>担い手の強化</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まめなかポイントの個人ボランティア受け入れ施設の拡充（子ども食堂など）</li> <li>・中学生、高校生の生徒によるボランティアの受け入れ</li> <li>・新たなプロジェクトの立ち上げによる地域活動の実施</li> <li>・子ども食堂交流会でのボランティア情報の共有</li> <li>・担い手養成研修、及びふくし教育の継続実施</li> <li>・地域資源としての企業等の巻き込みによる担い手確保</li> </ul>
	身寄りのない方への支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身寄りのない方の入院、入所の支援が困難</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身寄りがない人への支援ガイドライン作成と関係機関への配布</li> <li>・身寄りがない人への支援シンポジウム（YouTube 配信）</li> </ul>

地域課題		取り組み状況	今後の展開
地域資源との連携	未帰宅高齢者の早期発見	<u>見守りネットワークの強化</u> ・協力事業者を拡大、また市民啓発を兼ねた「高齢者見守り協力店」ステッカーとスイングポップの事業所への配布、及び掲示依頼 ・見守りネットワーク協力者増に向け、登録方法を事業所に説明 ・民生児童委員や福祉推進員、近隣住民による日常で心配な方の見守り体制構築 <u>GPS 端末機の活用</u> ・徘徊高齢者を養護している家族に対して GPS 端末機の貸し出し ※GPS 端末機：14 名に貸与（R4.12 月現在）。R 元年 4 月以降、延べ 45 名が利用 <u>見守りツールの活用促進</u> ・認知症等の理由で行方不明になった高齢者の早期発見、保護時の身元確認に活用する見守りシールの配布（R4.12 月 79 名登録）	<u>見守り支援者の拡大</u> ・「見守りネットワーク事業」メール受信協力者の拡大 ・高齢者見守り協力店の新規登録と登録事業所への再周知  <u>見守りツールの活用促進</u> ・見守りシール給付事業の市民および協力事業者への周知 ・有効活用に繋げるため、配布後の使用状況の把握
	正しい知識の推進（ふくし教育の推進）	・認知症や障がいの症状に対する不安（徘徊、火の不始末、孤独死、病気への偏見）から、地域の理解、支援が得られず、住み慣れた地域で住むことが困難になる ・学校、企業等との連携不足  <u>市民向けの普及啓発、教育の実施</u> ・市報、社協だより、Facebook、Youtube など多様な媒体で広く周知 ・市内商業施設に「高齢者見守り協力店」ステッカー、スイングポップの配布と従業員への啓発 ・「新聞配達員による要配慮者の見守り活動」の活用 <u>ふくし教育の推進</u> ・ふくし教育実践事例集「もんじゅの知恵」の配布 ・認知症サポーター養成講座を通じて認知症への正しい理解を促進 <u>地域ケア会議の活用</u> ・専門職と近隣の支援者などによる地域ケア会議を通じ、専門職と地域との関係構築 <u>認知症サポーターの活用</u> ・認知症サポーターによる具体的な支援につなげるため、養成講座受講者にボランティア希望の意思確認を実施 <u>あいサポート運動(障がい者サポーター)の推進とメッセージのスキルアップ</u> ・メッセージのスキルアップ研修 ・障がい者への理解促進のため、養成講座受講者に支援者としての活動ボランティア希望の意思確認を実施 ・学校区に配置している「地域学校コーディネーター」との連携 ・企業との見守り体制等の連携	<u>見守り支援者の拡大</u> ・「見守りネットワーク事業」メール受信協力者の拡大 ・高齢者見守り協力店の新規登録と登録事業所への再周知 ・認知症サポーターによる具体的な支援活動の検討、チームオレンジの結成 ・孤独死防止の仕組み作り  <u>普及啓発の継続実施</u> ・市民及び企業・事業所への理解促進のため普及啓発を継続  <u>ふくし教育の推進</u> ・ふくし教育実践事例集「もんじゅの知恵」の周知・活用 ・認知症サポーター養成講座のオンライン開催の環境整備を促進 ・地域学校コーディネーターとの連携強化 ・社会資源としての企業との連携促進やライオンズクラブなどの団体との連携
	防災	・地域で災害時の支援に差がある ・災害時の避難方法や支援が明確でない ・自主防災組織がない、又はあってもどう連携していくのか分からず災害時の避難について不安がある	<u>地域における防災の取り組み</u> ・地域の自主防災組織による支援 ・松江市要配慮者支援推進事業を活用した自主防災組織の運営、立ち上げ ・災害時のマイタイムラインの作成 ・避難訓練等の実施  <u>関係機関や専門職との連携</u> ・災害時に備えた利用者、ケアマネジャー、地域住民による地域ケア会議の開催